

復興支援フォーラムニュース No. 67

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)
=====

第64回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等

5月2日(金) 午後6時半から、第64回フォーラムを開催しました。

NPO法人「えひめ311」代表理事の渡部寛志さん(南相馬から愛媛・伊予市移住)から、「避難者から福島復興を考える」と題して、詳細な報告をしていただきました。

ゴールデンウィーク後半の直前で、お忙しい日時でしたが、30名に参加していただきました。

フォーラム終了後、提出されたご意見等は、以下の通りです。

~~~~~

★愛媛における避難されている方々の実情と活動、将来に向けて成すべき事への思いを強く受けとめました。遠隔地避難されている方の生の声を重く受け止め、ここに住んでいる者の責務を感じました。(S.K)

★遠く離れた地で、福島のアイデンティを守ろうとする姿に感動しました。(H.S)

★「心の復興が遅れている」「全ての子や孫のために」、この二つは全く同感です。歴史をやっている人間としては、「これまで祖先たちがつないできた過去をも奪われる」という発言を受け取らなければと思いました。(Y.I)

★被災地からの避難者の方の報告ははじめてです。それだけでなく、遠く離れた避難地での生業を福島とつないでおられる努力に頭が下がります。(S.M)

★約1,200km離れた地において、故郷福島の地を思う心が十分伝わりました。また、バラバラになりやすい被災者の心を何とかまとめようとしたNPO法人を立ち上げ、活動をされている姿に感動しました。(K.F)

★避難している方々の思い、複雑な心境を重く受けとめたい。(Y.T)

★県外避難者の話を聞く機会は貴重でした。(N.I)

★自主避難者と強制避難者と地元に残った人の皆それぞれ違う境遇と、それにともなって起こる断絶が悲しいと思いました。（自主）避難者の地元からも、避難者からも批判され、逃げたと自責する三重苦というのはひどいと思いました。原発事故から時間が経った今だからこそ、異なる立場の声も聴く話し合い、復興とともに伺える場が必要でないかと思いました。貴重なお話ありがとうございました。

★先日もNHKで紹介されて、実際の言葉で詳しく伺えてよかったです。特に、どんな形でも、他のところでも、農業を続けたいという意地で、農業を続けているという事が良く分かりました。いろいろなやり方、知恵が使われていることに力強さを感じました。えひめのミカンは、本当に美味しい。今後も続けてください。

★いつまでこんなこと（机上の空論）を繰り返しているのか。これで何か解決するのか。福島県として住める、住めないの線引きして、国に働きかけていくべきでは？県知事や根本大臣を招いてください。

★千葉県野田市から小野さんに誘われて参りました。到着が8時過ぎになってしまい、講演が終わって、Q&Aの時間になってしまい、お話の中身を十分に伺うことができず残念でした。（H.S）

## 【予告】

=====

### 第66回 ふくしま復興支援フォーラム

2014年5月21日（水） 18時30分～20時30分

坪倉正治氏（南相馬市立総合病院非常勤医、相馬中央病院非常勤医、  
東京大学医科学研究所研究員）

「内部被ばく検査の現状、結果から見えることとその問題点」

於）福島市アクティブシニアセンター「AOZ」大活動室1

=====

### 第67回 ふくしま復興支援フォーラム

2014年6月5日（木） 18時30分～20時30分

渡辺利綱氏（大熊町長）

「大熊町の被災の現状と復興の課題」

於）福島市アクティブシニアセンター「AOZ」大活動室1

=====

（前回のフォーラムの会場で配布しました「ふくしま復興支援フォーラムニュース」は65号ではなく、66号でした。お詫びして訂正します。）

## 飯館村は負けない — 復興の模索と課題 —

松野光伸

### 1 飯館村の地域づくり

#### (1) 飯館村の概況

福島県阿武隈山系北部（標高220～600m）の「寒村」

冬は-20℃以下も。冷害多く、出稼ぎの村。出身地を「ごまかす」

近年は畜産振興で有名に。兼業多く、村民所得は県内ワースト3

原発からは40キロ離れ、電源三法交付金の対象外

#### (2) 地域づくりの特徴

過疎地域優良事例表彰（大臣賞、2006年度）

揉めた選考過程

住民・職員の参加・協働による基本構想・計画づくりと事業化

第3次総合振興計画（1983年）が転機

住民・職員を「一本釣り」「個人の立場」で委員に

ミートバンク事業、夢創塾、村の本屋、若妻の翼

地区・集落（行政区）を基盤とする地域づくり

第4次総合振興計画（1994年）での地区別計画づくりと事業化 … p1

20行政区すべてでの事業化 … 「バラマキ」行政、「丸投げ」行政

中山間地域等直接支払い制度の目的意識的対応 … p2

20行政区すべてでの取り組み

推進協議会・村独自財政による対象外行政区への支援

農地・水・環境保全向上対策への対応の場合も

合併問題への取り組みにみる住民・職員の参加・協働

ダイバート方式での村民検討会 … p3, p4

職員の参加を可能に

合併問題は結婚と同じ（?）

「までいライフ いいたて」（5次総）に基づく地域づくり

## 2 全村避難の取り組み

### (1) 国の指示への抵抗、国への要求と提案

「安全とともに安心を」と、車で1時間圏内への集団的避難を要求  
村内事業所と特別養護老人ホームの存続  
全村見守り隊の組織化  
「二重の住民票」  
住民（女性・青年層）からの批判も

### (2) 計画的避難（後発避難）による「仮のムラ」の実現

住民意向調査と職員による避難施設の「こじ開け」  
1時間圏内に村民の85%が避難  
仮設住宅入居は3割、家族がバラバラに … p8  
児童・生徒の7割弱が在籍

## 3 復旧・復興（再生）の模索

### (1) 「除染して2年で帰村」を目標に

独自の除染計画の早期作成、仮置き場確保の折衝  
「自力本願」「住民参加」の除染

### (2) 除染の取り組みの遅れ

除染は村再生の前提だが、実施は国の責任・権限（直轄）  
村として、仮置き場の村内設置、減容化施設の受入れなども  
国による除染の遅れ  
横並び、縦割り、ゼネコン「丸投げ」  
除染（帰村）計画への批判・不信と諦め  
村民の同意、20行政区への「仮々置き場」設置が  
農地・裏山（居久根）・森林の除染、再除染等の確約が  
村と住民を主体とする除染の取り組み  
村振興公社による除染（環境省委託）  
住民有志による除染実験  
「ふくしま再生の会」の協力を得て

### (3) 「いいたて までいな復興計画」づくり

職員参加の素案づくり

目標を「村民一人ひとりの復興」に

村民会議による復興計画（第1版）の柱に

復興計画（第2版。2012年6月） … p5

「戻れる人」「戻れない人」「戻らない人」への支援

帰村のための村内拠点の整備、村外子育て拠点の整備

復興計画（第3版。2013年6月） … p6

村外拠点の整備、地区別計画（土地利用など）の見直し

## 4 現状と課題

### (1) 避難者（地域）の「封じ込め」から「切り捨て」へ

帰還か移住かの二者択一

形だけの除染と賠償の上乗せで

2014年度中の除染終了（住宅周辺のみ）の予定だが

移住の動きの強まり … p7

### (2) 「安定的」避難生活（第3の道）

揺れる帰村の意向 … p8

避難生活の長期化、過酷化

立たない帰還の見通し

移住できない状況も

災害（復興）公営住宅の整備 … p9, p14

教育・健康・福祉、公共施設・商店、交通 … p10, p13

### (3) 農地・農業の再生

除染の徹底（農地、山林）

営農再開 … p11, p12

独自の新たな農業支援制度の構築を

再生基金の創設

## 5 感想的意見

### (1) 国民的支持・合意に基づく生存権保障を

政策「転換」への国民の無意識的支持も  
帰還の保障が責務でなくなることの意味  
国民的支持・合意に基づく生存権保障を  
除染もまずやってみないと  
全国的（世界的）知恵・知識・技術の結集・開発で  
以前の当たり前な生活の保障を  
私的財産権でなく生存権の保障を

### (2) 地方自治・住民自治に基づいた再生の取り組みを

国・東電の責任を追求すると共に  
被害者としての「恨み」だけでなく  
国民的支持・合意の獲得と政策転換のためにも  
基礎自治体と住民が主体となった取り組みを  
「再除染」などへの現実的・実効的取り組み  
復興交付金の「一般財源」化の要求  
有事における（将来を見据えた）住民・職員の参加・協働  
「いいたて復興志士の会」、「かすかだりの会」  
地区・集落を基盤とする除染、土壌回復、営農再開等の取り組み

### (3) 避難自治体同士の連携、そして県と連携した取り組みを

被曝・避難自治体と県とで「広域連合」などを組織して  
除染・公営住宅・営農再開を目的に、期限付きで  
中山間地域等直接支払制度、県営農再開支援事業などの「特例」  
職員体制は「志願」県職員を中心に